

【南毛利南地区】令和7年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和7年6月28日(土) 午後6時55分～午後8時10分  
 会 場: 愛甲公民館 1階集会室  
 参加者: 地区の自治会長(11名)、公民館地区館長  
 市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
<b>意見1 今後のごみの収集方法について</b>	
<p>【坊中第二自治会】</p> <p>■現在、南毛利南地区では、ごみを各集積所にまとめ、収集していますが、地域の特性上、ごみ出しが大変な方も大勢いる状況です。このような従来からの方法では、自治会加入者と未加入者の対応の線引きが難しく、集積所の場所や、ごみ出しのマナーについて、近隣トラブルが発生する懸念があり、集積所の掃除など自治会員の負担にもなっています。</p> <p>坊中第二自治会では、現在、自治会加入者の負担を減らす取組として、DXの推進のほか自治会加入者と未加入者の公平性を確保するため、ごみ集積場の清掃の代わりに、自治会未加入者から負担金をもらう方法などを検討しているところ です。</p> <p>市内の一部の地域では、戸別収集が行われている地域があると聞きました。戸別収集は自治会加入者と未加入者の不公平さの緩和につながると考えています。そこで、厚木市として、今後のごみの収集方法について、どのように考えているのか。また、想定されるメリットや課題について、伺いたい です。</p> <p>戸別収集では、狭い道に収集車が入ることが出来ないといった問題も起こるため、収集車が入れないところは、市と自治会が協力することで、個別収集に近い形の取組ができないかと考えています。</p> <p>【愛甲宮前自治会】</p> <p>■南毛利南地区でも、外国籍の方が増えています。外国籍の方々の中には、ごみ出しのルールを理解していない人もいますと考えています。ルールを理解すれば、正しくごみ出しをしてくれると思います。自治会でも、ルールの周知に努めていますが、言語の問題もあるので、分かり易いチラシを作成するなど、市にも協力してほしいです。</p>	<p>■ごみ収集の方法については、現在、戸別収集の効果を検証するため、モデル地区として、市内の厚木北、厚木南、依知南、金田、小野、まつかけ台地区において、もえるごみの戸別収集を実施しています。</p> <p>該当地域の皆様からは、ごみ出しの負担が減った、カラスや猫の被害が減ったなど、高い評価を得ていますが、社会的な課題となっている人材の確保や、ごみの収集運搬費が増加傾向にある状況を踏まえ、今後の方向性を慎重に検討する必要がありますと考えています。現実的な課題を見極め、地域の皆様の御意見を伺いながら、検討していきます。</p> <p>■ごみ集積所のマナーについては、外国籍の方にもごみ出しのルールを理解してもらうために、どの言語での周知が有効か検討しながら取り組んでいきます。</p> <p>(担当課: 環境事業課)</p>
<b>意見2 桜の木等の計画的な更新について</b>	
<p>【愛甲原自治会】</p> <p>■愛甲原地区は、愛甲原住宅として発足して60年近く経ち、その当時に植えた公園の桜も大きくなりました。</p> <p>市でも定期的に剪定をしてくれていますが、ソメイヨシノの寿命はおおよそ60年、長くても100年ほどと言われており、寿命を迎えている木もあります。</p> <p>公園の桜は、毎年、花見イベントが行われるなど、地区の人々が開花をとて楽しみにしています。このイベントは地区の繋がりを保つためにも大切であると考えていますが、イベントにとって欠かせない桜の木が1、2年前に伐採されてしまいました。</p> <p>将来にわたってこの風景やイベントを残していくためにも、計画的な植え替えを考えてほしいです。</p>	<p>■桜にも寿命があり、老木化により倒木の危険性が生じます。市内の樹木については、枝の剪定を行っており、巨木化や弱体化により倒木等の恐れがある場合には、伐採等の対応を進め、適切な維持管理に努めることで、市民の皆様の安全を守っていきます。</p> <p>今後についても、計画的に管理するとともに、植え替える樹木の種類も含め、皆様の御意見を参考にしながら地域の憩いの場となるよう考えていきます。</p> <p>(担当課: 公園緑地課)</p>
<b>意見3 地域の風土・未来に向けてについて</b>	
<p>【船子自治会】</p> <p>■船子地区は、地区内に八幡神社があり鎮守として祀られています。また、厚木市内でも歴史のある地区であり、歴史と自然環境が調和した地域です。神社の村祭りでは、こどもたちのみこしや、神楽殿舞台で芝居や舞踊を披露するなどして、地区の住民が楽しく過ごしていました。</p> <p>しかしながら、少子高齢化や人口減少が続く中、イベントや祭りの参加者も年々少なくなっています。地元への想いが希薄になっていることに加え、転居者に対する、地域のイベントや歴史の浸透不足などが原因だと考えています。地域の歴史を知ることでのふるさとへの思いが強くなると思うのですが、いかがでしょうか。</p> <p>市長は「スポーツ・文化芸術・歴史の聖地」の実現を掲げています。地域の隠れた財産や文化を見極め、そして掘り起こし、地域の魅力を伝えるまちづくりを進めてほしいです。地域においても、こどもたちに楽しんでもらうために節分のイベントや、鮎釣りのイベントなどを行っています。</p> <p>今後も、守り伝えられてきた事象を未来へ継承することで郷土への愛着につながるよう地域コミュニティの活性化や交流に繋げる取組を期待しています。</p>	<p>■船子地区には、歴史ある文化遺産が多くあります。その文化遺産を行事や祭りなどを通して地域の方に知ってもらい、文化の継承をしていくことは重要であると考えています。また、お祭りなどを通して、こどもたちに楽しんでもらうことで文化を継承することも大切なことであると思います。</p> <p>守り語り継ぐべき文化の継承については、地域の特性を活かした地域づくりの一環として、地域の皆様にも取り組んでいただき、学芸員など専門知識を持つ職員に御相談いただければと思います。地域の皆様とともに、地域の魅力向上や地域文化の振興に向けて取り組んでいきます。</p> <p>本市としても、地域の歴史を継承するための支援をし、市民の皆様に地域の魅力を感じてもらえるよう取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>(担当課: 市民協働推進課、文化魅力創造課)</p>

意見4 大塚山古墳について(追加)	
【宿愛甲自治会】 ■大塚山古墳という前方後円墳があり、前方の部分は伊勢原市にあり、現在はマンションになっています。 現在残っている後円墳の部分を地主の方々が市に寄贈したいと言っています。この話は、10年ほど前にも出たのですが、寄贈には至らなかったため、改めて提案したいと思います。 大塚山古墳のある愛甲台地は、関東大震災でも大きな被害が出なかった地盤の強い土地ですので、後円墳の部分を市のものにしてもらい、そこに公園などを作れば、一時避難所としても活用できると思います。	■10年前、寄贈していただくに至らなかった経緯について、後日確認します。 また、大塚山古墳のある土地が、公園に適しているかどうかについては、形状等の課題もあると思いますので、現状の状況等も併せて確認し、回答します。  《実施日以降の対応状況等》 ■愛甲大塚古墳については、令和3年度に土地所有者の方から、古墳の管理について相談があり、協議を行った経緯があります。その中で、寄贈についてもお話がありましたが、愛甲大塚古墳について詳細な調査が行われておらず、歴史的な価値づけが明確になっていないことから、保存・整備・活用等について方針が定められないため、現状では寄贈は受けられない旨をお答えしています。 市としましては、愛甲大塚古墳の現状について把握すべく、令和5年に墳丘の地形測量、令和6年に墳丘部のレーダー探査などの調査を実施し、現在それらの調査成果をもとに、古墳の構造等について検討しているところです。古墳を評価するためには発掘調査が不可欠ですが、発掘調査については、不用意な掘削は古墳の破壊につながる恐れがあることから、慎重に計画を立てた上で取り組む必要があります。 以上のことから、愛甲大塚古墳に対する評価は、現状では定まっていないため、保存や整備に対する計画を作成する段階には至っていません。  (担当課:文化魅力創造課、公園緑地課)
意見5 社会福祉協議会のバスの廃止について(追加)	
【愛甲宮前自治会】 ■私は、自治会と併せて民生委員としても活動しているのですが、先日の会議で、社会福祉協議会のバスがなくなったことで、移動手段がなくなってしまったという意見が出ました。生きがいを持って生活を送るため、生涯学習をしていきたいと考えている高齢者も多いですが、移動が不便になったことにより活動自体もしにくくなってしまいました。公共交通機関を利用することも高齢者にとっては難しいです。社会福祉協議会のバスの復活を検討してほしいです。	■高齢者の方々の生きがいづくりは、健康のためにも大変重要であると認識しています。 マイクロバスの廃止は残念なことではありますが、市としても可能な支援を検討していきます。  (担当課:地域包括ケア推進課)